



アイヌ文化のことをもっともっと話したい！
本田優子と村木美幸の二人が、その魅力を交代で
執筆するソンコ(=お便り)形式のエッセイです。

ウエランカラブイタク(挨拶のことば)

本田優子(札幌大学教授)

新

年度が始まりました。初対面のご挨拶をする機会も多い季節ですね。いへつになっても緊張して、正直苦手…。でも、かつてのアイヌ社会では、挨拶はとりわけ重要なこととされました。よその家を訪問したら決してキヨロキヨロしたりせず、男性の場合は、罎炉裏を挟んで向こう側に座っている主人と向き合って座ります。そして、手のひらを静かに左右に動かしながら数回擦り合

せた後、手のひらを上に向けてゆつくり三、四回上下させます。これをオンカミ(拝礼)といいますが、手をせわしなくこすり合わせたりするのはムシオンカミ(ハエの拝礼)と言われ、下品なんです。なにしろ落ち着いて堂々としていることが肝要。そして、オンカミをしながら、いよいよ挨拶のことばを述べます。久しぶりに会った場合はその間の^{おひき}労いと再会の喜び、主人の健康の祝福、主人の村を誉め称えるなどの内容で、常套句をふんだんに使い、節をつけた流れるような雅語^{がご}で語られます。つまり日常のことば遣いではダメ。そこでその人の人柄や教養が計られるので、神話や故事を引用することも多いとのこと。挨拶を受けた主人の側も、同じように洗練された美しいこ



イラスト/山丸ケニ

とばで返します。このように正式に交わし合う挨拶のことばは、人間だけではなくそれぞれのトゥレンカムイ(憑き神)が聞いているので、格式ある厳かなものであるべきなんです。というわけで、男の子は小さい頃から挨拶の訓練をしていました。さすが雄弁であることを男性の第の美德としているアイヌ社会だけのことはありますね。もちろん、打ち解けたあとは普通の会話になるそうですよ。

また初対面の挨拶では、どの川筋出身の者であるなど、自分の出自をきちんと述べることも重要とされます。参議院議員を務められた萱野茂先生^{かやのしげる}は、歴史上初めてのアイヌ語での国会質問の際、次のように述べられました。

カニアナクネ アイヌモシリ シリムカ ニラタニコタン コアバ マカ 萱野茂 クネルウエネ(私はアイヌの国 沙流川のほとり

ニ風谷村に生を受けた萱野茂と申します)。国会質問でプロフィールをうと思われるかもしれませんが、これがアイヌの伝統的で正式な挨拶なのです。

ところで、このような挨拶のことばは男性同士で交わされ、女性は静かに控えるものとされてきましたが、現代は女性も堂々と語るべきだよね、と私は思っています。



次回のテーマは「ヌサ(祭壇)」
村木美幸(アイヌ民族文化財団副理事長)が
担当します。



ウポポイ

NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間

JR白老駅から徒歩約10分



ウポポイPRキャラクター
「トゥレッポン」



イランカラブテ
「こんにちほ」からはじめよう。

■本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学教授。北大卒業後11年間平取町ニ風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
■村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団副理事長。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
■山丸ケニ(やままるけに):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団職員。ウポポイでアイヌ語体験プログラムを担当する。